

杉並区教育委員会

教育委員長 大蔵 雄之助様

教育委員 宮坂 公夫様

教育委員 安本 ゆみ様

教育長 井出 隆安様

2008年11月4日

杉並の教育を考えるみんなの会

### 09年度から小学校で使用する教科用図書の採択に関する質問書

貴教育委員会は8月13日、09年度、10年度使用の小学校教科用図書の採択を行いました。この採択に当たっていくつかの疑義を感じましたので、ここに質問書を提出することとしました。ぜひご回答ください。

教科書採択に教師たちの意見が重く受け止められるシステムになっていた頃は、子どもたちと活動する教師たちが、子どもたちの発達や理解の状態など勘案しながら、教師同士が研究を重ねて、よりふさわしい教科書を選んで意見を上げ、採択に生かされていました。

私たちは、教科用図書採択の方法が変わっても、教育現場の意見を尊重するという原則は生かされなければならないと考えています。その点では教育委員の皆様もそのことを否定されてはられません。教科用図書採択のときにしばしば、「先生方のご意見もそのようですから」という発言をされます。

そこで、今回の小学校の教科書採択に際して、特に「算数」の教科書採択はなぜあのようになったのかが分からないのです。私たちが閲覧した、各学校からの「**調査報告書**」は、精査してみれば明らかに啓林館の「算数」教科書について、他の教科書出版社のものと大きく違い、意見が多くついています。「良い・悪い」は書かないように指導されているにもかかわらずです。43校から出された6社の教科書に対するコメントA4版・86枚分を精査に読むと、その4分の3は啓林館算数についてかなりはっきりと否定的コメントが書かれているのが分かります。そのいくつかを列挙すれば

- ・問題解決学習をさせるには適さない
- ・押さえるべき基本的なことの丁寧な説明が望まれる
- ・表紙や挿絵が学習から離れた印象を感じる
- ・児童の思考に沿っていない
- ・児童の思考に即した単元配列でない
- ・導入の学習で同じページに解答が書かれていて、やりにくい
- ・子どもに考えさせる部分が少ない
- ・習熟ページの問題文が不適切
- ・他社の教科書で学習をした子どもとのずれを生じる恐れがある

などなど、たくさん問題点が列挙されています。これは他社の教科書についての記述には

まったく見られないことです。

さらに、これを集約して作成した「**種目別調査部会報告書**」は、啓林館算数について

- ・説明は丁寧であるが、児童が活動しながら解決するには難しい
- ・単元配列が児童の実態に合わないものがある
- ・考え方が吹き出しなどで示されていて、理解を助けるためには有効であるが、自力解決には不都合である。

と書かれていて、最終集約である「**教科書調査委員会報告書**」には、内容も記述も種目別調査部会報告書とまったく同じに書かれています。にもかかわらず、あと2年使用だから今までと同じでいいというのは現場の声をまったく無視したとしかいえません。そこで以下の質問にお答えください。

質問1 .

貴委員会の皆様方はすべての報告書をお読みになりましたか。

質問2 .

お読みになっているとしたら、これらの記述についてどのように判断されたのですか。

お読みになっていないとしたら、なぜお読みにならなかったのですか。この報告書はお手元に行かなかったのですか。

質問3 .

「あと二年使用だから」というのが主要な判断基準だったように聞き取ったのですが、たとえ一年でも、そこには学ぶ子どもたちがいるのです。子どもたちにとっては貴重な期間なのだと思うのですが、そのことについてどのように判断されたのですか。

質問4 .

教科書は教育委員会が採択することになっていますが、そうであっても教育現場の声は最大限生かされるべきと考えますが、そのことについてどのようにお考えですか。

ご多用とは思いますが、ぜひ、11月20日までにご回答ください。

以上